

平成28年度第1回農地中間管理事業運営委員会開催概要

公益社団法人千葉県園芸協会

- 1 開催日時 平成28年7月15日（金） 13:30～17:00
- 2 開催場所 教育会館本館6階608会議室
- 3 参加者 委員：10名（欠席委員2名）
事務局：10名（公益社団法人千葉県園芸協会農地部）
関係機関：12名（オブザーバー出席：県担当課、各農業事務所）

4 概要

（1）農地利用集積の推進について

農地中間管理事業について、ア 農地中間管理事業の概要、イ これまでの機構の農地貸借等の実績、ウ 平成28年度推進体制及び推進方針について事務局から説明。

（2）各地域の農地集積の状況について

各地域の運営委員が、地域の状況、自己の農業経営及び農地集積・集約化に対する今後の取り組み方針等について発言。

（3）意見交換

上記の説明や発言を踏まえ、意見交換を行った。主な意見は以下のとおりである。

ア 生産基盤の再整備に関する意見

- ・ 中山間地よりも平坦地の農地の再整備を優先すべき。
- ・ 条件不良の農地は受けられない。
- ・ 高低差がある農地は自力施工での改良は困難。
- ・ 基盤整備事業を行えば集積が進む。

【事務局】

- ・ 機構では、今年度から畦畔除去・暗渠排水等の簡易な整備に、国の農地耕作条件改善事業の導入を始めている。また、ほ場の大区画化の試験的な取組を予定している地域もあり、状況を今後つないでいきたい。

イ 農地の集約化に関する意見

- ・ 生産資材コストの削減には限度があり、農地整備や集約化が必要。
- ・ 農地の枚数を減らすことが重要。
- ・ 担い手が多い地域では、機構による担い手間の農地利用調整は難しい。
- ・ 中山間地域は担い手が少なく、農地が集まってくるが、受けきれない。

【事務局】

- ・ 他の担い手農家との意見交換でも同様な意見を聞いており、担い手農家の農地の集約化の重要性は認識している。難しい課題だが、担い手農家や地域と話し合いを進め、具体的な方策を探っていきたい。

また、地域の担い手が連携し、農地の利用調整を地域に働きかけ、集約化が図ら

れた優良事例を本年度のパンフレットで紹介している。この取組みを地域の担い手と地権者との利用調整の啓発資料として利活用し、農家等へ働きかけを行っている。

ウ 農地中間管理事業の認知度等に関する意見

- ・ 一般の農家は制度について詳しく知らない。
- ・ 担い手は説明を受ける場が多いので、比較的制度を知っている。
- ・ 地主に農地中間管理事業を紹介したが、「面倒くさい」と言われた。

【事務局】

- ・ 制度概要の説明のみでは、出し手の事業趣旨への理解に至らず、関心がもたれにくい状況がある。このため、丁寧な説明に努め、出し手向けにはわかりやすいようパンフレットを見直した。また、身近な人からの口コミなどが効果的であることから、関係機関と連携を図り、地道に地域での機構活用事例を増やすことや地域での話し合いを進めて行くことに努めている。

エ 人・農地プランなど地域の話し合いに関する意見

- ・ 担い手が少ない地域の方が話し合いがしやすい。担い手が多い地域は難しい。
- ・ 機構が行政や土地改良区と一緒に農家を回らなければ、目標達成は困難。
- ・ 人・農地プランは個人では作れない。まとめ役の農家等が必要だが、いない。

【事務局】

- ・ 人・農地プラン作成には地域リーダーの候補を発掘することが重要であると認識している。まずは、地域ごとに機構活用の農地集積に関心を示す担い手に重点的に働きかけを行い、地域の農地集積の話合い推進の糸口を探している。

オ その他の意見

- ・ 輪作のように畑で1年毎に違う担い手が違う作物を作れたら良い。

《次回の農地中間管理事業運営委員会について》

第1回農地中間管理事業運営委員会では、農地中間管理事業への委員からの意見出しを中心に行ったが、これらの意見を集約し、第2回農地中間管理事業運営委員会では、以下のテーマについて、課題検討を行い、改善策の提言につなげて行く。

- ア. 生産基盤の再整備
- イ. 農地の集約化
- ウ. 農地中間管理事業の農地の出し手への周知
- エ. 人・農地プランなど地域の話し合い促進